

平成 29 年 度

自 平成29年 4 月 1 日

至 平成30年 3 月31日

事 業 報 告 書

I 平成29年度 事業報告書

平成29年度の本道酪農は、乳用牛資源減少傾向が顕在化したことと併せ、天候不順や、台風18号の通過による農業施設の損壊、飼料作物の倒伏被害等の影響がありましたが、畜産クラスター事業の推進等による官民一体となった協力体制の下、生乳生産量は回復傾向で推移しました。

国内の酪農情勢に目を向けますと、「畜産経営の安定に関する法律の一部を改正する法律」いわゆる“改正畜安法”が施行する運びとなりました。

一方、国際貿易交渉を巡る情勢は、TPP（TPP11）が「包括的及び先進的な環太平洋パートナーシップ協定」という新たな協定として大筋合意され、また日EU・EPAの大枠合意など、何れの交渉においても酪農畜産に影響を及ぼす可能性があり、予断を許さない大変不透明な状況になっています。

酪農経営全般としては、担い手不足による酪農家戸数の減少や肉用牛価格の高騰並びに乳牛価格高騰を背景とした乳用後継牛資源の不足が続き、生乳生産基盤の弱体化が懸念されました。

このような中、国と北海道は、生乳生産基盤の強化と生乳生産量の維持・拡大に向けて、限られた乳用牛資源の能力を最大限に発揮するため、乳牛のベストパフォーマンスの実現に向けた取組みに着手しているところであり、本会も、北海道牛群検定促進クラスター協議会事務局として性判別精液及び受精卵活用事業やベストパフォーマンス事業を通じた乳用牛資源の回復、並びに酪農経営向上に向けた取組みに積極的に協力しました。

また、本来の使命である乳牛検定事業並びに生乳検査事業を通じて、本道酪農、乳業の健全な発展に資すると共に、生乳流通体制合理化推進事業の活用等により、生産者負担の軽減を行うとともに、新たな試みとして、乳牛の健康管理、繁殖性向上を目的に乳中ケトン体情報、妊娠関連糖タンパク検査（以下 PAGs検査）の活用推進を行いました。

牛群検定事業については、乳牛検定組合数98組合、農家数4,188戸、生乳出荷農家に対する普及率では74.9%になり、検定頭数は約34万7千頭でした。平成28年度バルク乳年間出荷乳量1,000トン以上の大規模農家では、牛群検定加入率が81.7%と検定情報を生産向上に活用しています。

検定にかかる各種研修会については、検定成績の有効活用の促進や支援体制の整備等を目的とした研修会を開催するとともに、検定員養成研修会を開催し検定精度の向上や信頼性の高い検定立会の実施に努めました。

このほか、酪農学園大学との包括連携協定に基づき、現場に即したカリキュラムを組み、その中で牛群検定の重要性と検定情報の利用、並びに北海道における乳質改善に関する講義を行いました。

電算業務については、次期基幹システムの構築・統合を視野に入れたデータベースの集約作業を進めました。また、牛群検定Webシステムおよび検定データ収集タブレット端末のアプリケーション修正、補完を継続し完成度向上に努めました。

大規模検定システムおよび自動検定システムについて、最新OSへの対応、効率化を図るためのシステム改修を行いました。

後代検定事業については、関係団体との密接な連携の下で調整交配精液の完全消化と娘牛保留等に努め、国際的にも高いレベルにある国産種雄牛の作出に貢献しました。

未經産牛のSNP検査とゲノミック評価、新たな形質の遺伝的能力評価については、検定農家および検定組合に対して情報提供をすることで、早期の選抜淘汰が可能となることから、牛群の遺伝的能力の向上と効率的な酪農経営へ寄与することが期待されております。このような中、北海道乳牛改良委員会の構成メンバーとして、本道における今後の乳牛改良の効率的・効果的推進体制の構築に向けて取り組んで参りました。

生乳検査事業については、合乳検査、個乳検査、個体乳検査および依頼検査について、公正かつ正確な検査を実施しました。

指定生乳生産者団体と乳業者との取引等に関わる合乳検査においては、アウトサイダーを含む380万9千トン（前年対比100.2%）を対象に成分、体細胞数、細菌数ほか

の検査を実施しました。

検査業務の基本となる検査精度確保については、試験所及び校正機関の能力に関する公定法分析についてのISO/IEC17025試験所認定機関として国際規格に基づいた適正な管理のもと、試験を実施しました。

乳質改善支援業務については、高品質で安全性の高い生乳の継続的な生産・供給のため、北海道乳質改善協議会と連携を密にし、生産並びに輸送段階の衛生管理、乳房炎防除、抗菌性物質残留の防止、異常風味に関する情報収集及び提供に取り組みました。

調査試験業務については、乳中ケトン体に関して、検査手法等を生乳検査専門委員会に諮り、平成30年度からの情報提供に向けて取り進めを開始しました。さらに、異常風味判定に係る官能評価員の養成を目的としたトレーニングの実施、バルク乳中マイコプラズマ菌（属）の遺伝子検索に係る申請調査試験を実施し、さらには平成30年度からのPAGs検査開始に向け態勢整備を行いました。

また、道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズの認証機関として、本制度の円滑な推進に努めました。

組織運営においては、公益法人の財務規律である「収支相償」を前年度に引き続き達成できることとなりました。

また、短期的な財務状況を見通した資産取得資金の積み立てや、業務の効率化を推進するための調査を実施する等、安定した事業継続を実施すべく将来に向けた取り組みに着手しました。

第1 事業の実施状況

1 乳牛検定関係

(1) 牛群検定事業

ア 牛群検定の実施

- 乳用雌牛群の改良と乳用種雄牛の選抜を促進するため、北海道の強い農業づくり事業（産地競争力の強化）牛群検定高度化事業実施要領に基づき、98検定組合等において、牛群検定、後代検定を実施した。
- 年度末における検定農家数は4,188戸（44戸加入、153戸除籍と前年度より109戸減少）、検定牛頭数は34万6,987頭（前年度より1,130頭増加）となり、事業量に応じて検定組合に補助金を交付した。

事業の内容および実績

（単位：円）

事業実施主体	区分	内容	事業費	内 訳	
				道費補助金	その他
(一)乳牛検定組合等・北海道家畜人工授精師協会	能力検定	検定員立会謝金	242,377,151	75,695,077	431,328,659
		生乳検査	223,893,980		
		計	466,271,131		
	調整交配啓発	推進会議	1,482,572		
		調査・指導	9,500,210		
		資料作成	138,891		
		調査とりまとめ	9,005,057		
		現地指導	2,407,160		
		計	22,533,890		
	検定娘牛保留啓発	調査・指導推進	12,265,471		
		資料作成	178,088		
		調査とりまとめ	5,775,156		
		計	18,218,715		
小計	計	507,023,736			
本会	検定指導	検定員研修	2,099,227	766,923	3,042,220
		現地指導	1,709,916		
		小計	3,809,143		
合 計			510,832,879	76,462,000	434,370,879

イ 牛群検定の推進

- 牛群検定の一層の普及を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定を実施した他、検定手法の簡易化に係る検討、および牛群検定Webシステム等の説明会を開催する等、検定離脱防止と牛群検定加入促進に努めた。
- AT検定は97組合、3,733戸、30万7,961頭で実施され、全検定農家戸数の89.1%となった。
- 自動検定（搾乳ロボット検定）は、補助事業による導入件数が増加しており、昨年度末より45戸増の167戸となった。
- 大規模酪農検定システムは、14機種で対応可能となっており、25組合、49戸（前年度より7戸増）が本システムを利用して検定を実施した。

ウ 検定成績

- 平成29年度の牛群検定成績における、1頭1日当たり乳量は、前年度に比べ0.2kg増の30.0kg、乳成分については、乳脂肪率は0.01ポイント増の3.94%、乳タンパク質率は0.01ポイント増の3.34%、無脂乳固形分率は0.02ポイント増の8.81%であった。
- 体細胞数は前年度の212千/mlから改善され209千/ml、濃厚飼料給与量は0.1kg減の10.9kgであった。
- また、平成29年1月～12月の経産牛1頭当たり年間検定成績における乳量は、前年に比べ63kg減の9,439kgとなり、分娩間隔については前年と同値の426日であった。

エ 検定情報の利活用の指導・支援

- 検定事業を円滑に推進するため、各地域・組合代表者による協議会・会議を開催した。
- 検定情報の有効活用と効果的な指導に資するための各研修会を主催するとともに、検定員の資質向上、検定農家の支援体制の強化に努めた。
- 検定組合等の要請に応じて講師を随時派遣し検定事業の普及を図った。

① 検定指導士認定講習会

検定員および検定農家への指導助言活動を推進していく上で地域の中核となるリーダーを養成する講習会を開催し、北海道知事より10名が検定指導士として認定された。

- 開催期間 平成29年6月26日～6月30日
- 開催地 札幌市（本会会議室）
- 受講者 12名（聴講生含む）

② 検定員養成研修会

従事期間が概ね3年未満の検定員を対象とした実務的な研修を行い、検定成績の収集に係る精度向上を図った。

- 開催期間 平成29年7月27日～7月28日
- 開催地 本別町（北海道立農業大学校）
- 受講者 26名

③ 乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議

- 開催日 第1回 平成29年9月28日
第2回 平成30年3月29日
- 開催地 札幌市
- 出席者 延べ79名

④ 地区別組合長協議会

- 開催期間 平成29年10月2日～10月20日
- 開催地 札幌市ほか9地区
- 出席者 253名

⑤ 地区別検定員研修会（繁殖性等向上対策研修会と併催）

検定立会業務に関する検定員の資質向上を目的とした研修を行うとともに、新たな情報として追加される乳中ケトン体情報等について周知を図った。

- 開催期間 平成29年11月27日～12月9日、平成30年1月26日
- 開催地 札幌市ほか9地区
- 出席者 延べ377名

⑥ 現地濃密研修会（検定情報活用研修会）

- 開催日 第1回 平成29年10月30日～10月31日
第2回 平成29年11月17日～11月18日
- 開催地 天塩町（第1回）・伊達市（第2回）
- 出席者 延べ69名

⑦ ゲノミック評価の利活用を図る勉強会

遺伝的能力向上対策の円滑な推進のため、検定組合・改良団体等の関係者を対象にゲノミック評価技術等の普及・知識向上を図る勉強会を開催した。

- 開催日 評価技術ワークショップ 平成30年1月22日
検定情報活用研修会 平成30年3月1日
- 開催地 札幌市
- 出席者 延べ173名

⑧ 検定員中央研修会（乳用牛群検定全国協議会との共催）

- 開催日 平成30年2月28日
- 開催地 札幌市
- 出席者 325名

[講演テーマ・講師]

i 「乳牛群の潜在性ケトーススとその対策」

酪農学園大学 獣医学群獣医学類 教授 及川 伸 氏

ii 「システムとしての酪農経営」－ 乳検データの活用方法 －

北檜山町乳牛検定組合 ひらかわ牧場 平川 賢一 氏

iii 「顧客満足度ナンバーワンを支えるセコマの取り組み」

株式会社セコマ 代表取締役社長 丸谷 智保 氏

また、平成29年度優秀検定員として、本会が推薦した次の11名が乳用牛群検定全国協議会から表彰された。

[優秀検定員 受賞者11名] ※敬称略

森 岡 健 次	美深町乳牛検定組合
三 浦 匡 司	静内乳牛検定組合
後 藤 孝	士幌町乳牛検定組合
村 上 隆 利	足寄町農業協同組合
村 上 弘 美	摩周湖乳牛検定組合
成 田 恵美子	浜中町乳牛検定組合
住 田 泰 徳	中春別乳牛検定組合
小 松 加奈枝	標津町乳牛検定組合
熊 谷 千代見	津別町酪農振興会乳牛検定部会
鈴 木 克 彦	えんゆう乳牛検定組合
大 野 通 孝	稚内乳牛検定組合

⑨ 繁殖性等向上対策研修会

乳中ケトン体情報およびPAGs検査結果の活用等、新たな生産情報の活用について普及啓蒙を図った。

- 開催日 平成30年2月27日
- 開催地 札幌市
- 受講者 187名

(2) 後代検定事業

ア 後代検定娘牛に係るマスタ登録・生産娘牛・受胎状況

- （一社）北海道家畜人工授精師協会等との密接な連携により調整交配および娘牛の保留の推進に取り組んだ。

	調整交配頭数	受胎頭数	生産娘牛頭数	マスタ登録頭数
平成26後検	51,355	23,773	8,702	7,343
平成27後検	44,659	20,664	7,315	(6,123)
平成28後検	43,654	20,131	(6,899)	(3,677)

(注) カッコ内は経過中の頭数

イ 平成29後検の調整交配

- 29後検では、ゲノミック評価情報等を用いて実施された予備選抜を経て、候補種雄牛160頭の調整交配が実施された。
- 頭数は、当初計画に追加希望1,458頭（13組合）が上乗せとなり、4万7,763頭（前年比100.1%）となった。
- 本会は、地区連合会との協議に基づき調整交配精液の配分案を作成し、各地区の検定組合・関係団体に対して計画内容の説明を行った。

前 期 交配期間：平成29年11月～ 平成30年2月		後 期 交配期間：平成30年4月～7月		合 計	
候補種雄牛 頭 数	調 整 交 配 計 画 頭 数	候補種雄牛 頭 数	調 整 交 配 計 画 頭 数	候補種雄牛 頭 数	調 整 交 配 計 画 頭 数
90	26,856	70	20,907	160	47,763

ウ 乳用種雄牛後代検定受託事業

- 北海道内における平成29年度乳用種雄牛後代検定事業の円滑な推進を目的に（一社）家畜改良事業団との委託契約に基づき、後代検定娘牛保留強化、調整交配促進、精液保管配送等の取り組みを実施した。
- 検定組合等には、（一社）家畜改良事業団から本会を通じて8,065万円の助成金等が交付された。

- 娘牛保留強化費（検定農家） 55,276,000円(a)
24・25後検（A 4 検定 1 万円/頭：853頭・AT検定 9 千円/頭：5,194頭）
- 調整交配促進費（検定組合） 10,065,500円(b)
28後検受胎頭数 500円/頭：20,131頭
- 調整交配精液の補完配送費（AIサブ） 15,305,388円(c)
28後検後期・29後検前期分 206円/本：74,298本

合 計（a + b + c） 80,646,888円

(3) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛能力向上事業）優良乳用牛導入支援対策

- 検定組合等が実施した優良乳用牛導入支援対策のうち、乳用牛の適切な飼養管理に係る酪農家に対する指導の取り組みに対し、(一社)家畜改良事業団から検定組合等に11,613万円が交付された。
- 本会は、(一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき、事業推進に係る取りまとめ事務等を実施した。

ア 生産寿命・繁殖成績向上対策

- 乳用牛の適切な飼養管理に係る酪農家に対する指導

94組合（延べ54,385戸） 116,131,103円(a)

イ 委託事業実績

- 事務取りまとめ 本会 1,193,932円(b)

合 計 (a + b) 117,325,035円

(4) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛能力向上事業）遺伝的能力向上対策

- (一社)家畜改良事業団との委託契約に基づき、検定組合等において後代検定娘牛、同世代牛9,345頭を対象にSNP検査用サンプルの採取を実施し、本会はゲノミック評価の利活用を図るための勉強会を開催した。
- (一社)家畜改良事業団から本会を通じて、検定組合等に2,243万円が交付された。

- ゲノミック評価の実施のために必要なサンプル収集及び検査

92組合（9,345検体） 22,428,000円

本会 とりまとめ賃金 163,325円

小 計 22,591,325円(a)

- 乳用牛のゲノミック評価の利活用を図るための勉強会の開催

2回 延べ173名 376,695円(b)

合 計 (a + b) 22,968,020円

(5) 平成29年度乳用牛改良対策事業（牛群検定の試行）

- 牛群検定の普及拡大を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定を24組合、50戸で実施し、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて、検定組合に助成金410万円を交付した。
- 本事業では、平成11年度から平成29年度までに合計906戸が実施し、牛群検定の普及定着に大きな効果をあげている。

(6) 畜産・酪農生産力強化対策事業（繁殖性等向上対策）

- 乳牛の周産期の健康管理、及び繁殖管理の技術向上を図ることを目的に、乳中ケトン体情報とPAGs検査の活用促進に取り組み、(一社)家畜改良事業団から本会に対して、補助金2,523万円が交付された。

ア 効率的な生産体系の確立に向けた技術支援

- 技術支援実証整備検討会の開催 札幌市 2回 延べ 48名
- 繁殖性等向上対策研修会の開催 札幌市他22回 延べ 980名
- 検査結果解析、技術資料等作成

小 計 6,030,814円（定額）(a)

イ 繁殖性の向上（健康管理の高度化）

- 乳中ケトン体測定オプション導入 6台 6,415,200円（1/2相当）
- PAGs検査実施 26,299検体 12,781,314円（ ” ）

小 計 19,196,514円(b)

合 計 (a + b) 25,227,328円

(7) 電子計算業務

ア マスタ登録業務

- 検定農家および検定牛のマスタ登録を次のとおり処理した。

検定農家と検定牛の追加・除籍処理件数

区 分	処 理 件 数		本年度末	前年度末	比較増減	対前年比
	追 加	除 籍				
農 家 マ ス タ	戸 44	戸 141	戸 4,142	戸 4,239	戸 △ 97	97.7%
検定牛マスタ	頭 146,084	頭 140,087	頭 549,446	頭 543,449	頭 5,997	101.1%

注) マスタ処理件数のため実施戸数および頭数と相違。

イ 検定成績の計算処理業務

- 検定記録の年度処理について、652万9千件（月平均54万4千件 前年度比1万6千件減）の報告があり、これに対する修正を3万9千件（報告件数の0.6% 前年度比3千件減）、照会を2万5千件（前年比2千件減）処理した。
- 検定成績のフィードバック状況は、検定立会から検定成績表発行までの平均日数で3.21日（前年度から0.03日短縮）であった。

ウ 検定記録の集計分析と提供

- 検定成績の電子データを希望する検定組合等に対し、年間検定成績および牛群検定終了成績年報を提供した。
- 検定日速報等のメール配信システムの運用については、検定農家へ直接送信分235戸（前年度比6戸減）、支援・指導団体124ヶ所、2,044戸分（前年度比1ヶ所、29戸分減）を対象として実施した。
- 農業協同組合等が、その保有データと乳検データを組み合わせた酪農経営支援（組合員経営管理支援システム：(株)JA北海道情報センター）を行うために、同意が得られた検定農家の牛群検定データ提供を継続した。

エ 検定情報処理システムの補完と開発

- 平成28年度までに全組合が牛群検定Webシステムによる検定データ送受信へ移行したことから、データ送受信専用稼働させていたデータベースを停止し、基幹サーバ・Webサーバでデータ送受信を完結させるようシステムを改修した。
- Wi-Fiを使用したタブレットからの直接送受信システムを開発し、広域組合等における遠隔地での検定データ送受信処理の省力化を図った。
- 大規模検定システムおよび自動検定システムについて、最新OSへの対応と処理の効率化および省力化を図るため改修を行った。これにより、自動検定データ計算処理の検定組合への移行を段階的に開始し、自動検定農家処理システムの効率化を推進した。
- 検定データ収集タブレット端末（JT-B1、FZ-B2）で利用している検定用アプリケーションの不具合修正等を行い、バージョンアップを実施した。
- 牛群検定Webシステムについては、デザイン変更、IE以外のブラウザへの対応（Edge/Chrome）および調整交配近交情報の開発を行った。
- 検定組合用の牛群検定システム（WebHT）については、PDF管理ツールの機能を公開し、帳票印刷作業の簡略化を行うことでペーパーレス化の推進を行った。その他、検定進行状況等の機能追加を行い検定組合業務の利便性向上を図った。
- 飼養頭数調査を廃止し、それに伴い関連数値の掲載されている帳票（検定実施状況一覧表、年間検定成績）を改修した。
- 日次帳票のうち検定記録票について、直近繁殖成績の表示件数を1件から2件へ拡充し、ET報告があった場合の表示方法も検定成績表（個体累計成績）と同様になるように修正した。
- 年次帳票のうち後代検定調整交配近交情報について、近交係数の基準値変更（6.25%→7.20%）および「近い祖先で近交になる交配の回避」に対応し、表示内容を改修した。

- 乳中ケトン体の検査開始に伴い、本会データベースの補完を行うとともに、乳中ケトン体情報の活用に向けて、csv形式のデータ提供および検定日速報の改修を行った。
- 乳牛検定部と生乳検査部のシステム統合に向けてRFP（Request for Proposal/提案依頼書）を提示しパートナー企業の選定を行い、次年度の要件定義に向けた準備を行った。

オ 検定方法に関わる調査・検証

- 今後の検定簡易化と利便性の向上へ向けて、道内5戸の搾乳別サンプルデータの収集を継続した。

カ 乳牛改良情報の活用手法と新たな遺伝評価方法の検討

- 生涯生産性の向上に寄与する健全性形質の情報提供に向けて、乳房炎、生存能力、乳中ケトン体および肢蹄スコアについて次の検討を行った。
 - 乳房炎については、多形質モデルによる遺伝評価値の信頼度の算出、多形質として扱う形質の検討およびゲノミック評価による予測精度を調査した。
 - 生存能力については、遺伝評価の実施へ向けた基礎分析としてモデルの検討と遺伝率等の算出を行った。
 - 乳中ケトン体に関する基礎調査として情報分析を行った。
 - 肢蹄スコアについては、牛群階層ごとの集計および検定日記録との関連を調査した。
- 酪農情勢に即した情報提供に向けて、泌乳期間の延長に対応可能な累積乳量の予測方法の検討および自動搾乳検定データの整備を行った。
- 関係団体との連携、国内外の学会等への参加を通じて情報収集および分析技術の習得に努めた。
- 革新的技術開発・緊急展開事業に係るAI（泌乳平準化）コンソーシアムに参画し研究機関と協力して課題を解決する体制を整えた。

2 生乳検査事業関係

(1) 生乳検査事業

ア 合乳検査の実施

- 指定生乳生産者団体及び乳業者の申請により、成分・体細胞数検査16万6千検体および細菌数検査7万検体の合乳検査を実施した。
- 検査対象乳量は、380万9千トン、前年度対比100.2%であった。
- 脂肪率および無脂乳固形分率は、それぞれ3.958%（前年度3.958%）、8.786%（同8.769%）であり、無脂乳固形分率では0.017ポイント上昇した。
- 衛生的乳質においては、細菌数1万/ml以下の比率は98.5%、体細胞数30万/ml以下の比率は、前年度より0.1ポイント上昇し98.6%と、引き続き高水準を維持した。
- 体細胞数20万/ml以下の比率は、1.9ポイント上昇し70.5%（前年度68.6%）であった。

イ 個乳検査の実施

- 農協等からの申請により、成分・体細胞数検査14万6千検体、細菌数検査14万7千検体の個乳検査を実施した。
- 検査対象乳量は成分・体細胞数検査が251万3千トン、前年対比100.1%であり、細菌数検査は252万9千トン、前年対比100.7%であった。
- 本会が個乳検査を受託している農協・団体数は73団体、酪農家戸数は4,050戸であった。

ウ 個体乳検査の実施

- 乳牛検定組合等からの申請により、成分・体細胞数検査ならびにMUN検査について231万5千検体（前年対比99.9%）の検査を実施した。
- 本会が個体乳検査を実施する組合数は73組合、農家数は3,077戸で、年度末における個体乳受託シェアは、検定農家数ベースで74.2%、頭数ベースでは67.3%であった。

エ 依頼検査

- 農協および乳業工場等からの依頼により各種検査を実施し、総依頼件数は、105万8千検体（前年対比98.3%）であった。
- 主要な割合を占めてきた出荷毎のバルク乳や個体乳の体細胞数検査は、今年度91万3千検体であり、前年対比は97.9%であった。
- 乳房炎起因菌同定検査は1万2千検体で、前年対比98.9%であった。

オ 生乳検査精度管理の充実強化

- （一社）Jミルクが認証する生乳検査精度管理認証施設として本会の内部精度管理の充実を図り、定められた作業標準等に基づき適正な検査を行うことで公平かつ正確な検査の実施に努めた。
- 乳成分測定機の精度管理を目的として実施している公定法分析について、ISO/IEC17025（試験所認定）認定機関として、国際規格に基づいた適正な管理のもと、試験を実施した。

カ 外部精度管理への参加および国内機関との連携

- （公財）日本乳業技術協会が実施する外部精度管理調査およびマックスルーブナー研究所（MRI，ドイツ政府研究機関）が実施する体細胞数測定機の国際相互比較試験に参加し、乳成分および体細胞数測定機の精度確認を実施し、良好な評価を得た。
- また、乳成分測定機における精度管理の根幹となる公定法分析については、（公財）日本乳業技術協会と定期的なクロスチェックを実施し、国内の検査精度確保に協力するとともに、外部精度管理として国際的な精度管理機関（FAPAS，イギリス）が実施する技能試験に参加し、良好な評価を得た。
- さらに、微生物試験に関しては、栄研化学(株)が実施する外部精度管理に参加し、良好な評価を得た。

(2) 乳質改善支援業務

ア 乳質改善への支援

- 乳質改善に係る技術普及では、北海道乳質改善協議会と連携し、生乳集荷業務新任担当者研修会や乳房炎防除対策研究会、ミルカー管理技術指導者講習会の企画立案への協力並びに講師派遣を行うとともに、関係機関の主催する研修会にも講師を派遣し、良質乳生産技術の普及に係る支援を行った。
- ミルカー点検に関わるミルキングシステム分析表に関して、適切なシステムの維持、管理がなされるよう、各関係者向けガイドブックの作成に協力した。
- 関係機関および集荷担当者を対象とした講習会等では、調製した異常風味試料を用い、模擬的官能検査を実習することで風味に関する意識の向上に協力した。

イ 個乳生菌数削減の取り組み

- 道外移出乳向け等の生乳に対し、平成29年7月より10月にかけて指定工場が受け入れるタンクローリー乳2,819検体および道外向けミルクタンクコンテナ800検体の細菌数検査を実施し、更にこれらのうちタンクローリー乳2,240検体、ミルクタンクコンテナ651検体について予備培養法により、低温細菌数の推定を行うとともに、細菌汚染が確認されたタンクローリーについては、積載された汚染原因農場を特定し対策に関し支援を行った。

ウ 生乳検査機器等の精度チェックと校正指導

- 指定生乳生産者団体からの依頼を受け、年4回、農協等が所有する乳成分・体細胞数測定機および細菌数測定法のクロスチェックを実施し、基準内で良好に管理、運用されていることを確認した。
- 乳業者が所有する乳成分測定機についても年6回、クロスチェックを実施した。

エ 生乳取扱者技術認定講習会の開催

- 生乳取扱者の生乳等に関する専門知識及び生乳検査の技術水準の向上を図ることを目的として、生乳取扱者や畜産関係技術者等を対象に生乳取扱者技術認定講習会を開催した。
- 効果測定の結果に基づき、認定基準を満たした受講者に、北海道知事から認定証が交付された。

- 開催期間 平成29年10月2日～10月6日（5日間）
- 開催地 札幌市
- 受講者数 52名（生産者団体、乳業者、集送乳業者の各担当者）
- 知事認定者 52名
- 運営委員会の開催 2回

(3) 安全・安心に向けた取り組み

ア 生乳のトレーサビリティ確保に向けた取り組み

- 指定生乳生産者団体が進める生乳トレーサビリティ確保への取り組みに、本会が窓口となり収集する生乳流通情報（出荷乳量、乳温）を提供することで協力した。

イ ポジティブリスト制度に係る検証

- 指定生乳生産者団体が推進するポジティブリスト制度に対応した農薬・動物用医薬品使用記録や搾乳・乳温等の生産履歴の記帳記録の推進に協力した。
- 指定生乳生産者団体からの要請により、農薬・動物用医薬品の用法・用量の遵守、記帳等による安全確保の仕組みが良好に機能していることを確認する目的で、タンクローリー乳を対象として農薬・殺虫剤の成分であるシロマジン10検体、抗生物質カナマイシンおよびエリスロマイシン1,904検体について残留確認検査を実施し、すべて陰性を確認した。

- 平成27年7月23日付け厚労省食安発0723第1号「生乳中のアフラトキシンM1」の規制値を踏まえ、(一社)Jミルクが全国的に実施したアフラトキシン検査のうち、北海道分の12検体について検査協力を行い、すべて陰性を確認した。

ウ 自記温度計更新に係る協力

- 指定生乳生産者団体が導入した自記温度計が更新時期を迎え、補用品（現状と同等の後継機）の運用が示されたことから、今後の運用方法に係る検討及び、更新機器の機能の検討に協力している。

(4) 調査試験業務

ア 乳中ケトン体検査に関する調査試験

- 乳中ケトン体について、平成30年度からの情報提供開始に向けて、過去実施した調査試験結果に基づき、基準値ならびに活用方法の検討を行い、各分野の専門家からなる生乳検査専門委員会に諮り承認を得たうえで、本会取り進めの基礎資料とした。

イ 効果的な官能評価員養成方法の検討

- 生乳の格付け検査として重要な位置づけである風味検査について、分析型パネリストの養成を目的として、全事業所の職員を対象に月間1回のトレーニングを実施した。
 - 本会基準を満たした前年度とほぼ同水準である6割の職員をパネリストに認定した。
 - より現場の実態に即したトレーニング方法の検討を行い、平成30年度から適用することとした。

ウ 個体乳の遊離脂肪酸（FFA）に関する調査試験

- 今年度よりバルク乳を対象として情報提供を開始したFFAパラメーター

について、個体乳試料の測定精度の検証を行った結果、バルク乳試料の精度よりも劣るものの牛群の傾向を把握する等、限定した用途としては利用可能と考えられた。

エ バクトスキャン法のコンバージョンテーブルの検証

- 本会の細菌検査法であるバクトスキャン法のコンバージョンテーブル（総菌数から生菌数への換算式）について、定期検証を行い、導入当初より適用している換算式の有効性を確認した。

オ 申請調査試験の実施

- マイコプラズマ乳房炎を効率的に防除するための体制構築の一環として、地域としてマイコプラズマ乳房炎防除に取り組む根室管内において、バルク乳を対象とした同菌のスクリーニング検査を行い、情報提供を行った。その実績は、延べ検査戸数3,575戸に対し陽性戸数は24戸であり、検出率は0.7%であった。

カ PAGs検査の体制整備

- 平成30年4月からのPAGs検査開始に向け、検査員の技術トレーニングならびに検査体制の整備を行った。

(5) 効率的な検査体制の構築

- 生産者負担の軽減の観点から効率的な生乳検査体制の確立を目標とし、個乳検査等自主検査を行っている地域の生産者団体と、検査委託について検討・協議を行った。
- 平成29年5月からJAとまこまい広域並びにJAむかわの個乳細菌数検査を新規受託した。
- 平成29年7月から新冠町乳検組合、平成30年1月から浦河町並びに三石町乳検組合の個体乳検査を新規受託した。

- 新規の検査受託に伴い、検体数の増加に対応するための高速測定機導入にあたっては、『平成29年度生乳流通体制合理化推進事業』を活用し、また更新対象機については、必要な保守を行ったうえで延長使用して効率的な検査に努め、検査費用の増嵩を抑制した。

(6) 検査基幹システムの更改

- 平成29年10月までに生乳検査システムを整え、個乳受託農協へのFFAに係る情報提供を取り進めた。
- 乳中ケトン体データの有効活用を推進するため、検定データとの連携を取り進めた。

(7) 道産食品独自認証制度（ナチュラルチーズ）認証の実施

- 道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズ認証機関として認証実務の取り進めを行った。
 - 平成29年度における対象品目は計4事業者、11品目であり、前年度と同様であった。
 - 実務の概要
 - ・継続および新規認証受付 平成29年5月
 - ・書類審査 平成29年6月
 - ・現地審査 平成29年8～9月
 - ・専門家審査 平成29年11月21日
 - ・道による事業検査 平成30年3月30日

3. 総務部関係

(1) 組織運営関係

ア 中期計画の策定

- 第4期中期計画の最終年度にあたる本年は、中期計画検討委員会を開催し、計画の総括を行うとともに、次期中期計画（第5期、平成30年度から3年間）の策定を行なった。

イ 財務の健全化

- 公益法人に課せられる財務規律の遵守に努めた他、主要設備の取得にあたっては補助事業の活用等財務上の軽減が図られる取り組みを行った。
- 短期的な財務状況を見通した資産取得資金の積み立てを行い、将来の機器導入に向けた対応を行った。

ウ 施設の整備

- 懸案となっている老朽化施設の更新については、根室事業所の移転を地元関係者と協議し、取り進めることを決定した。

エ 業務効率化への取り組み

- 本年度は、業務の効率化を推進するため、各部署の勤務実態調査を行い、ここで確認された要改善事項については、次年度に向け具体的改善を図ることとした。

オ 本道酪農発展のための普及啓発

- 昨年度、道からの委託により実施した「乳用牛ベストパフォーマンス実現事業（BP）」を、本年度は本会が独自に実施し、酪農家での課題発見と検証のため、本会が開発した“牛群検定WebシステムDL”等の利活用の普及を通じ、生乳生産量や乳用後継牛頭数の減少傾向を打開するための啓発を企画課が主体となり行なった。

(2) 基本事項への対応

- 理事の職務執行は、法令及び定款のほか、理事会運営規程、事務局規程等に基づき行なわれたほか、法令、定款及び社会規範等の遵守を目的として、コンプライアンス規程、リスク管理規程を定めた。
- 公益法人としてのコンプライアンスの徹底を図るため、内部監査（年4回）、個人情報保護等の研修を計画的に実施した。
- 人事・教育研修等を通じた職員の能力向上への取り組みを行なう等、法人運営に係る基本事項への対応を行った。

第2 主要な処理事項

年 月 日	処 理 事 項
平成29. 4.20～21	第1回事業所長会議（札幌市）
5.22～23	平成28年度決算会計実査（札幌市）
29	平成28年度決算監査（札幌市）
30～31	第1回内部監査（旭川市：旭川事業所）
6. 1	第1回理事会（札幌市）
19	役員選考委員会（札幌市）
26～30	検定指導士認定講習会（札幌市）
27	第43回通常総会（札幌市）
〃	第2回理事会（札幌市）
7. 3	第1回生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
27～28	検定員養成研修会（本別町）
8.25	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（安平町）
9. 4～ 6	第2回内部監査（札幌市：総務部）
21	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（中札内町、新得町）
26	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査（興部町）
28	後代検定推進会議（札幌市）
〃	第1回乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）
10. 2～ 6	生乳取扱者技術認定講習会（札幌市）
2～20	地区別検定組合長協議会（全道10ヵ所）
3～ 4	第3回内部監査（札幌市：生乳検査部）
30～31	第1回検定情報活用現地濃密研修会（天塩町）
31、11.2	平成29年度上半期会計実査（札幌市）
11.17～18	第2回検定情報活用現地濃密研修会（伊達市）
21	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ専門家審査（札幌市）
24	平成29年度上半期監事監査（札幌市）
27～1.26	地区別検定員研修会（全道9ヶ所）
29	第2回生乳取扱者技術認定講習会運営委員会（札幌市）
12.11	第3回理事会（札幌市）
1.22	評価技術ワークショップ・ゲノミック評価の利活用を図る勉強会（札幌市）
1.23～24	第4回内部監査（札幌市：乳牛検定部）
25	第5期中期計画策定検討会
29～30	第2回事業所長会議（札幌市）
2.27	繁殖性等向上対策研修会（札幌市）
28	検定員中央研修会（札幌市）
3. 1	検定情報活用研修会・ゲノミック評価の利活用を図る勉強会（札幌市）
20	第4回理事会（札幌市）
29	第2回牛群検定組合連合会会長・事務局長会議（札幌市）

第 3 総 会

年 月 日	出席会員	議 案 と 議 決 状 況
第43回通常総会 平成29. 6.27	40	I. 報告事項 1. 平成28年度事業報告書について II. 付議事項 1. 平成28年度決算報告書（貸借対照表、正味財産増減 計算書ならびに財産目録）について 2. 平成29年度会費の賦課ならびに徴収について 3. 平成29年度役員報酬について 4. 任期満了に伴う役員改選について <div style="text-align: right;">原案どおり議決</div>

第 4 理 事 会

年 月 日	主 なる 議 案 と 議 決 状 況
第 1 回 平成29. 6. 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度事業報告書、決算報告書（貸借対照表、正味財産増減計算書ならびに財産目録）について 2. 検定事業に係る補助事業等の実施について 3. 平成29年度収支予算の補正について 4. 役員選考委員の選任について 5. 規程の一部改正について 6. 第43回通常総会の開催について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 2 回 平成29. 6.27	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役付理事の互選について <p style="text-align: right;">互選により議決</p>
第 3 回 平成29.12.11	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳牛検定事業に係る新規事業等の実施について 2. 乳牛検定事業に係る固定資産の追加取得について 3. 平成29年度収支予算（損益ベース）の補正について 4. 平成30年度検定納付金について 5. 平成30年度事業計画について 6. 根室事業所の移転について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 4 回 平成30.3.20	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 5 期業務運営に係る中期計画の策定について 2. 次期業務システム基盤構築について 3. 資産取得資金計画の変更並びに平成29年度資産取得資金積立額について 4. 組織の一部変更について（情報企画室の新設） 5. 平成30年度事業計画および収支予算について 6. 規程の制定並びに一部改正について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>

第5 組 織

1 会 員

区 分	28年度末現在	29年度加入	29年度脱退	29年度末現在
一 般 会 員	34	0	0	34
会 費 会 員	3	0	0	3
特 別 会 員	7	0	0	7
合 計	44	0	0	44

(会員名簿) (順不同)

一般会員

会 員 名	会 員 名
北 海 道	上 川 乳 牛 検 定 組 合 連 合 会
一般社団法人ジュネティクス北海道	後志地区乳牛検定組合連合会
一般社団法人北海道酪農協会	道南地区乳牛検定組合連合会
北海道ホルスタイン農業協同組合	胆振乳牛検定組合連合会
公益財団法人北海道農業公社	日高乳牛検定組合連合会
サツラク農業協同組合	十勝乳牛検定組合連合会
株式会社 J H B S	釧路地区乳牛検定組合連合会
ホクレン農業協同組合連合会	根室乳牛検定組合連合会
上川生産農業協同組合連合会	網走管内乳牛検定組合連合会
釧路農業協同組合連合会	宗谷乳牛検定組合連合会
根室生産農業協同組合連合会	留萌管内乳牛検定組合連合会
十勝農業協同組合連合会	一般社団法人北海道酪農畜産協会
宗谷生産農業協同組合連合会	雪印メグミルク株式会社
日高生産農業協同組合連合会	株式会社 明治
胆振生産農業協同組合連合会	森永乳業株式会社
石狩乳牛検定協会	よつ葉乳業株式会社
空知乳牛検定組合連合会	北海道日高乳業株式会社

会費会員

会 員 名	会 員 名
北海道農業協同組合中央会	北海道農業共済組合連合会
北海道乳質改善協議会	

特別会員

会 員 名	会 員 名
北海道乳業株式会社	タカナン乳業株式会社
チクレン農業協同組合連合会	北海道保証牛乳株式会社
くみあい乳業株式会社	ラクレン農業協同組合連合会
株式会社北海道酪農公社	

2 役 員

(単位：名)

区 分		28年度末現在	29年度末現在	摘 要
理 事	会 長	1	1	
	副 会 長	2	2	
	専 務 理 事	1	1	(常勤)
	理 事	8	8	
	計	12	12	
監 事	代 表 監 事	1	1	
	監 事	2	2	
	計	3	3	
合 計		15	15	

3 職 員

(単位：名)

区 分	28年度末現在	29年度採用	29年度退職	29年度末現在	摘 要
総 合 職	49	2	7	44	
一 般 職	17	0	2	15	
嘱 託	9	2	1	10	
合 計	75	4	10	69	

備考：臨時職員・パート職員 25名（年度末現在）